

(サブテーマ) 受け継ぐ勇気、育てる誇り～ローグ ベテランの知恵を若手のちからへ

こんにちは。芦屋市商工会女性部副部長の三森と申します。J R芦屋駅前のラポルテ 1 階で行政書士事務所を営んでおります。よろしくお願いいたします。

私たちはよく、他の女性部役員さん達から「部員が増えていていいねー」「世代交代がうまく行っていていいねー」などと褒めて頂きます。以前、私達が阪神 7 市 1 町講習会を開催した時に実施したアンケート結果を見ても、いずれの商工会女性部にも共通の悩みとして、「部員が増えない」「入部メリットをうまく伝えられない」などがあるようでした。私たちは、どうも比較的それがうまく行っているようなので、その理由を考えてみました。

まず、その理由として外すことのできないのが、毎年、親会によって開催される新年互礼会です。たくさんの方が出席し、今年も 170 名以上でした。何とその半数近くが女性で、年々増え続けています。この新年互礼会でお誘いして入部して頂くことが多いのです。今年は 5 名でした。ちなみに女性部の部員数は、現在 50 名です。

そしてもう 1 つ、外すことのできない理由。芦屋市商工会には、会員の事業経営について積極的に助言・尽力して下さる『事務局』という力強い味方が存在します。例えば入会間もない会員のために、創業支援の「創業塾」を立ち上げ、融資の相談にも乗る。例えばコロナ禍の時は「お弁当フェスタ」を開催して、集客が困難だった飲食店の売り上げアップに貢献する。そんな事務局が、創業塾などの時に新入部員の勧誘もしてくれるのですから、効果は絶大です。

芦屋市は、女性起業家が非常に多い町です。女性部といえば、かつては家業を手伝い、家事やお姑さんへの気遣いなどで気が張り続けている部員さんが、唯一大っぴらに家をあけることのできるのが女性部活動だった、ということが多かったと聞いています。しかし現在は、女性自身が個人事業主や会社経営者です。

また、先輩部員さん達は大変パワフルで前向き。阪神・淡路大震災で住居・店舗共に被災されながら、互いに力を合わせ、励まし合いながら復興されてきた不屈の精神の持ち主です。本業ではない女性部の活動に対しても、いつも一生懸命で、直接、自分の利益を求めません。しかし、昨今の新入部員の多くは、女性部の活動を自らの仕事に少しでも役立てたいと思っています。「このギャップ」こそが、新入部員が増えない、また、世代交代がうまく行きづらい理由なのではないでしょうか。

わが芦屋市商工会女性部の先輩方も、今の役員たちのやり方に、内心イライラハラハラされているのではないかと思います。「口を出したくなるから行事には出ない」などと言って、黙って見守って下さっているようです。

という訳で、私達が褒められるのは、「私たちが頑張っている」というよりは、「周りの環境が良い」という面が大きいんです。ただ、私達もそれだけだとは思っていません。例えば、やはり阪神 7 市 1 町講習会の

時のアンケートに「部長・副部長を決める時、なかなか決まらないので、『負担を減らして』誰でも喜んで引き受けてもらえるようにしたい」というご意見がありました。そうです。そうなんです。事業主は知り合いを増やしたいので、本来、団体に参加したいはずなんです。でも、仕事に家事、育児、介護と何でも自分でやらなければならないから、これ以上負担を増やしたくないんです。

そこで、^{おと}昨年春のさくらまつりでは、先輩方が長年続けて来られてファンも多かった「お好み焼き店」を、思い切って「子ども向けのくじ引き」に変えました。以前は朝7時から夜9時まで、それ以外にも後片付けに2日かかっていたのですが、これなら、役員の負担を大幅に減らせます。もちろん、内心すごく不安でしたが、蓋を開けてみるとお子さんたちが行列を作ってくれて大成功。収益もそれまで以上に上げることができました。

また、フリーマーケットやお祭りなど、年に数回ある行事の準備も、極力、役員会と同じ日にしたり、回数を減らして集中してやるなど、役員たちの負担が減るよう工夫しています。

さらに、月1回発行している女性部報「ふくろう便」は、負担が集中しないよう役員が毎月交代で原稿を書くようにし、毎月のクラブ活動報告なども極力、グループLINEで共有するようにしています。これは、現在の部長である酒井の、粘り強いIT改革の賜物です。

ところで実は、現在の役員にはもう一人、強力なメンバーがいます。ここ1, 2年の行事を行うにあたり、忙しい役員でも最大限の効果を上げられるよう工夫してくれた功労者の1人ですが、彼女は今、家族の介護でやむを得ず女性部活動をお休みしています。現在の役員8名のうち半数以上は、女性部員歴が4年以下と歴の浅いメンバーなのですが、役員の中からこれぞという人を見つけては積極的に役員に勧誘してくれた功労者の1人でもあります。

役員でも、例えば家族に介護が必要になったらその間休んで、落ち着いたら戻って来られる。例えば役員会にお子さん連れで参加する。ちなみにその彼女、役員会ではいつも、実にいい提案をしてくれる力強いメンバーで、そのお子さんも、くじ引きの景品を選ぶ時なんかには良きアドバイザーとなってくれたりします。

また今、役員会は、とても発言し易い雰囲気、良い意見がどんどん出て来ます。最近では、誰でも参加しやすいイベント「おしゃべり会」をカフェなどで開催し、入部を検討中の方にも参加して頂いています。現在の課題は、入部年数の浅い部員さんに、いかに継続してもらえるかということで、みんなで知恵を絞っているところです。

芦屋市は住宅都市で、目立った製造業も農林水産業もありません。よって特産品もありません。でも、何も無いからこそ、知恵で生きている町なのです。前部長木村は常々「女性部は変わらなければならない」と言っていました。私たちの挑戦が、果たして正解なのかどうかは、正直私達にも分かりません。そして、まだまだ道半ばだと思っています。でも、挑戦し続けることが大切なのだと、私は、そして役員のみみんなもそう信じています。

ご清聴ありがとうございました。